

環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

依頼№	17	事例№	5	依頼者	東海市立船島小学校	実施場所	東海市立船島小学校
実施対象	小学 6 年生 2 クラス（45 名）（クラスごとに実施）						
実施日時	令和 4 年 2 月 17 日（木）9 時 35 分～10 時 20 分、10 時 45 分～11 時 30 分						
テーマ	水に関するアクティビティを通して、水の循環や水と私たちとのつながり等を学ぶ。						

●依頼内容

小学校所有のビオトープを活用した授業の講師を紹介してほしい。

●講師：長谷川 明子 氏（ビオトープ・ネットワーク中部 会長）

長谷川氏(Ph. D.)は、1級ビオトープ計画管理士で博士の資格を有し、大学や専門学校での講師経験がある。また、自然環境の保全と私たちの暮らしの豊かさとの両立を可能にすべく、執筆や講演会等、自然環境の魅力を楽しく伝える活動に取り組んでいる。2010年に開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)においては、愛知県と名古屋市の生物多様性アドバイザーを務めた。現在、あいちミティゲーション専門家派遣事業(愛知県)の専門家、(公財)日本生態系協会評議員、尾張西部生態系ネットワーク協議会会長等として幅広く活躍されている。

●授業の内容（授業の構成は2クラス共通）

あいさつと活動前の準備体操	はじめに、講師（長谷川先生）の紹介が行われた。続いて、講師の指導により、アイスブレイクとしてアクティビティで怪我をしないための「生物多様性ストレッチ（準備体操）」が行われた。	10分
アクティビティの説明と実施	今日の学習内容や目的の説明と水の大切さを学ぶクイズが行われた後、アクティビティを開始した。アクティビティは、校庭内を地球に見立て水の存在する場所が示された9拠点をサイコロの目に合わせ移動し、設置された指示内容：一定時間目を閉じ風の音を聞く、葉の形を探す、匂いや触って感じたことを書くなど、五感を高めることを行いながら、水について学んだ。	25分
まとめ	アクティビティ終了後、子どもたちが水の存在するどんな場所（拠点）を回れたかについて確認し、がんばりを拍手でたたえた。その後、講師から、バケツを地球に見立て私たちが使える水の量がクイズで示され、水は地球規模で見ても有限な資源であり、その循環によって生き物を含めた地球のあらゆる要素が繋がっていること、また、私たち人間だけでなく、植物にとっても動物にとっても不可欠な資源であるということを知ることができた。	10分

●授業の様子

子どもたちは、アクティビティに先立って行われた準備体操で、屈伸をしながら地面を触って大地を感じたり、両手を伸ばして鳥になった気分を味わったりしながら、伸び伸びと楽しそうに体を動かしていた。当日は風の強い寒い日だったが、アクティビティが始まると、9つの拠点すべてを回ろうと黙々と一人で取り組む子、友だちと話をしながら各拠点到達に記された指示内容にじっくり取り組む子など、それぞれのペースでゲームを楽しんでいた。授業の最初と最後に行われた水に関わるクイズやアクティビティを通して学んだ、水が有限であることや循環していること、生き物にとって不可欠な要素であること等について再確認して授業を終えた。

ビーチボールを使ったクイズで水の大切さを学んだ。



アクティビティを通して、水の大切さを学んだ。

